



和's YAMATO

(わづやまと)

2022
春号

- 写真で楽しむ群馬の自然「発知のヒガンザクラ」
- シリーズ群馬の芸術家「ましもゆさ」
- 郷土史跡めぐり「しの塚古墳」
- お客様紹介「台東区立浅草公会堂」様
- 鎌倉殿の誕生 源平合戦を制し、幕府樹立へ
- 『神社仏閣から歴史を学ぶ』
- 源頼朝公と浅草寺
- 溫度検査院羅尼会



「山吹に舞う」F6号 須藤和之 画
ヤマトビオトープ園にて

写真で楽しむ 群馬の自然～季節の花～



樹齢は約500年と推定され、樹高は15メートル、根元の周囲は約5.8mあり、沼田市内のヒガンザクラで最も太い幹を持っています。枝張りは東西に17メートル、南北に22メートルあり、薄紅色の可憐な花を咲かせます。見ごろは4月中旬頃です。

発知のヒガンザクラ

群馬県指定天然記念物 群馬県沼田市中発知町

撮影 藤重 朋紀 氏

略歴 1952 群馬県利根郡みなかみ町生まれ
1971 群馬県立渋川高等学校卒業
1972 東京写真専門学院中退
1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社

2001 フリー
2010 写真集「上州路・一本桜」
2011 写真集「上州路」

表紙の絵「山吹に舞う」

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール PROFILE

1981年 群馬県前橋市生まれ

2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011~20) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーⅢ出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 現在 日本美術院院友

OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutooo.net/>

和's YAMATO (わづやまと) 春号 2022 (第52号)

【和's Yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和's YAMATO 春号 2022年(令和4年)4月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室)群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/



鎌倉殿の誕生

源平合戦を制し、幕府樹立へ

伊豆に配流されていた源頼朝は、源氏の棟梁として挙兵し、石橋山の戦いで平家に敗れたものの、反平家の武士を束ね鎌倉に入り、平家と対決する機会を伺っていた。平家は木曾義仲・源義経ら源氏軍に敗れて壇ノ浦で滅ぼし、頼朝は武士の都・鎌倉の主「鎌倉殿」となり、北条氏ら御家人とともに幕府の体制づくりを進めしていく。

木曾義仲の台頭と失脚

養和元年(三八二)、木曾義仲(源義仲)は、越後国の城長茂(じょう ながもち)を破り、越後、北陸を勢力圏に治めた。平家軍は義仲追討の兵をあげて対抗しようとすると、義仲は俱利伽羅峠の戦いで平家軍を退け、京都に向けて進軍する。養和二年、平家軍は義仲軍の勢いを止めることができず、安徳天皇とともに都落ちし、九州の太宰府へ逃れる。

義仲は入京し、平家に代わって京の都を武力で制圧しようとしたが、後白河法皇はそれを認めなかつた。頼朝は鎌



源氏山公園の源頼朝像
(神奈川県鎌倉市)



高館義経堂(岩手県平泉町)
義経終焉の地

倒の機会をうかがっていた。平家は中國、四国、北九州や瀬戸内海を勢力下に置き、京に向けて軍事力を拡大していった。清盛が遷都した福原から至近距離の「ノ谷」を軍事拠点にし、入京する勢いを見せる。頼朝は平家の進撃を阻む戦を義経に託し、義経は奇襲攻撃で平家軍を撃破した。

義経は、「鶴越の逆落とし(ひよどりごえのさかおとし)」といわれる、「ノ谷」の急峻な崖を馬で駆け下り、海沿いに陣を取つて平家軍を背後から襲つたの

だ。「ノ谷」の戦いの直前には、後白河法皇が源平両軍に休戦するように働きかけたそうだ。しかし、それは法皇による平家を追い詰めるための策略で、平家には休戦せよと伝え、義経には休戦を持ちかけなかつたため、義経は休戦と勘違いしている平家軍に奇襲攻撃を仕掛けてしま勝したとする説もある。法皇は平家の弱体化を望み、義経に加担していたのだった。

「ノ谷合戦で平家敗北

源氏一門の頼朝と義仲が争っているうちに、平家は勢力を盛り返し、源氏打

倉に築いた勢力を守るため、弟の義経、範頼に義仲討伐を命じる。この動きを

知った義仲は、後白河法皇を幽閉して院宣を強要、征夷大将軍に就任し、権威と武力で京を掌握しようと試みる。

しかし、元暦元年(三八四)一月、義経・範頼軍は宇治川の戦いで義仲軍を破つた。義仲は敗走し、北陸方面へ逃れようとしたが、近江の国・栗津で討ち死にした。

岐国(香川県)屋島に逃れた。源範頼が大将の源氏軍が平家軍と戦うが、攻略できずに膠着していた。この時、頼朝は義経を京に戻し謹慎を命じていた。その理由は、義経が頼朝の許可を得ずに後白河法皇から官職を得たことで、頼朝の怒りを買ったからだった。一ノ谷の戦いで共に戦つた範頼には恩賞があり、義経には無かつたため、後白河法皇が幕府に具申せず、義経に官職の恩賞を与えたのだった。頼朝は、朝廷から直接恩賞を受けることは固く禁じていた。それは、東国武士の結束に関わる問題で、頼朝を介さずに朝廷から直接恩賞を受けければ、御家人の間で不協和音が生じることと、鎌倉幕府に朝廷の影響力が強まってしまうからであつた。

範頼は平家軍を攻めあぐねていた。このままでは平家軍が優勢になつてしまふ懸念がある。頼朝は不承不承、義経の謹慎を解き、形勢を有利にするべく屋島に差し向かた。義経は、「ノ谷」の戦いの時と同様に、敵の裏をかく奇襲攻撃を仕掛け、平家一門は屋島の拠点

義経の挙兵失敗

元暦二年(三八五)五月、源義経は壇ノ浦合戦で生き残った平家の総大將・平宗盛を捕虜にして鎌倉に護送するため、自らも鎌倉に向かつた。ところが、頼朝は義経が鎌倉に入るのを拒否した。頼朝は、無断で朝廷から任官を受け、平家追討では和睦の隙を与えずには滅ぼさせたことに対し、義経に警戒感を強めていた。義経は京に戻り、頼朝との対決を決意し、後白河法皇に頼朝追



壇ノ浦古戦場跡
みもすそ川公園(山口県下関市)



屋島の戦いの戦場となつた
瀬戸内海(香川県高松市)

(監修・歴史家・文学博士 安藤優一郎氏 文・木下直也)

討の宣旨を発するように求め、頼朝の台頭を恐れていた法皇はそれを受け入れた。頼朝追討の正当性を得た義経は同調者を募るが、兵はまったく集まらず、計画は失敗に終わる。

頼朝と御家人の関係では、頼朝が御家人の所領を安堵（領土を承認すること）するリーダーであるから、御家人は命令に従っていた。義経が平家を討伐できたのは、反平家の武士たちが頼朝の所領安堵を期待して源氏についたからだった。頼朝と敵対すれば義経に味方しないのは当然のことであった。

勅許で守護・地頭を設置

文治元年（二八五）、頼朝は後白河法皇に、義経に宣旨を出したことに對し、軍勢を差し向けて問い合わせると、それは一時の氣の迷いだったと釈明し、今度は頼朝に義経追討の宣旨を発するのだった。北条時政は朝敵となつた行方知れずの義経を探索するため、法皇に全国的な監視体制を作る許可を申し入れて承認を取り、頼朝は守護・地頭を設置した。また、兵糧米を徵収することも認められ、東国から西国まで鎌倉幕府の支配権が及ぶことになった。

義経は奥州・平泉の奥州藤原氏を頼り、束の間の安息を得るが、文治五年（二八九）閏四月、当主の藤原泰衡は頼朝の義経追及の厳しさに屈して義経を襲撃、多勢に無勢の義経は追い詰められて自

害する。同年七月、頼朝は奥州征伐の兵を挙げ、藤原氏を征伐する。藤原氏は、過去に義経をかくまつた罪で攻撃されたが、實際は頼朝の霸權を確立する上で、奥州に君臨する藤原氏は脅威であるため、義経を口実に攻め滅ぼしたのだった。

朝は、幕府の統治機構を整えた。同時に、源範頼など源平合戦で功績を挙げた武将をも謀反の疑いありとして誅殺し、独裁体制を築く。建久十年（二九九）二月に頼朝は急逝し、嫡男の頼家が二代將軍に就任する。その二ヶ月後、十三人の有力御家人による政務運営方式を採用し、將軍の権力を制限することとなる。

十三人とは、北条時政（初代執權、後に失脚）、北条義時（二代執權）、梶原景時（後に誅殺）、比企能員（後に誅殺）、大江広元（初代政所別當）、三善康信（初代問注所執事）、和田義盛（内戦で戦死）、三浦義澄（北条派）、安達盛長（北条派）、八田知家（頼家派）、二階堂行政（政所別當）、中原親能（京都守護）、足立遠元（源氏の重臣）。今後、北条氏を軸に、幕府内の権力争いが巻き起こることとなる。

（次号に続く）

鎌倉幕府関係年表

年	源 頼朝	北条義時	事項
寿永2年(1183) 閏2月4日	35歳	19歳	平清盛死去
寿永3年(1184) 5月11日	37歳	21歳	義仲、平家を俱利伽羅峠で破る 平家都落ち 義仲入京 頼朝、朝廷から東国支配権を与えられる 義仲、後白河院を幽閉
7月25日			義仲、後白河院を幽閉
7月28日			義仲入京
閏10月			頼朝、朝廷から東国支配権を与えられる
11月			義仲、後白河院を幽閉
元暦元年(1184) 1月21日	38歳	22歳	義仲、頼朝が派遣した義経に討たれる 一ノ谷の戦い
2月7日			屋島の戦い
元暦2年(1185) 2月18日～19日	39歳	23歳	壇ノ浦の戦い 義経に頼朝追討の宣旨 頼朝に義経追討の宣旨
3月24日			上洛中の北条時政、諸国に守護・地頭の設置、兵糧米の徵収を朝廷に申し入れ～勅許
10月18日			義経を匿っていた奥州平泉の藤原秀衡死去
11月11日～12日			藤原泰衡のため義経敗死 頼朝、奥州征伐に出陣
11月28日			奥州平定～奥州藤原氏滅亡 頼朝上洛
文治3年(1187) 10月29日	41歳	25歳	後白河院に拝謁 権大納言、右近衛大将に任命される 鎌倉に戻る際に辞任
文治5年(1189) 閏4月30日	43歳	27歳	後白河院崩御 頼朝に征夷大將軍宣下
7月			頼朝再上洛
9月			閏白九条兼実失脚
建久元年(1190) 11月	44歳	28歳	頼朝死去、頼家が二代目鎌倉殿となる 將軍親裁が停止され13人の重臣による合議制に変更
建久3年(1192) 3月	46歳	30歳	有力御家人梶原景時（後に誅殺）の追放、後に殺害される
7月			頼家に將軍宣下
建久6年(1195) 3月	49歳	33歳	頼家が病のため危篤に陥る
建久7年(1196) 11月	50歳	34歳	北条家肅清をはかった頼家岳父の有力御家人比企能員が謀殺される、比企一族滅亡
建久10年(1199) 1月13日	53歳	37歳	頼家出家、伊豆修善寺に幽閉
4月12日			実朝に將軍宣下
12月			北条時政が政所別當に加わる～事実上の執權就任
建仁2年(1202) 7月22日	40歳		頼家、幽閉先で殺害される
建仁3年(1203) 8月	41歳		北条時政の策謀により、有力御家人畠山重忠討たれる
9月2日			京都守護の平賀朝雅の將軍擁立をはかった時政が政子と義時により出家に追い込まれ、伊豆修善寺に幽閉
9月7日			義時が2代目執權に
10月9日			京都で平賀が誅殺される
元久元年(1204) 7月18日	42歳		
元久2年(1205) 6月22日	43歳		
閏7月19日			
7月20日			
8月			

「鎌倉殿の13人」主な登場人物

【二〇一三年 NHK 大河ドラマ】

源氏	北条家	北条時政役	坂東彌十郎	平家	源行家役	阿野全成役	北条政子役	小池栄子
大姫役・南沙良	北条義時役・小栗旬	源範頼役・迫田孝也	源頼朝役・大泉洋	平清盛役・松平健	源義経役・菅田将暉	阿野全成役・新納慎也	北条政子役・杉本哲太	阿波局役・宮澤エマ
源頼家役・金子大地	北条宗時役・片岡愛之助	源頼朝役・大泉洋	木曾義高役・市川染五郎	平宗盛役・小泉孝太郎	源義経役・菅田将暉	源義経役・菅田将暉	牧の方役・宮沢りえ	木曾義仲役・青木崇高
源範頼役・迫田孝也	北条時政役・坂東彌十郎	木曾義高役・市川染五郎	木曾義仲役・青木崇高					
比企能員役・佐藤二朗	北条義時役・中川大志	比企尼役・佐藤B作	仁田忠常役・高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
梶原景時・栗原英雄	北条義時・梶原景時	三浦義澄役・佐藤B作	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
三浦義村役・山本耕史	北条義時・梶原景時	土肥実平役・阿南健治	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
安達盛長役・野添義弘	北条義時・梶原景時	三浦義澄役・佐藤B作	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
三浦義村役・山本耕史	北条義時・梶原景時	土肥実平役・阿南健治	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
三浦義澄役・佐藤B作	北条義時・梶原景時	三浦義澄役・佐藤B作	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
仁田忠常役・高岸宏行	北条義時・梶原景時	仁田忠常役・高岸宏行	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
幕府官僚	北条義時・梶原景時	幕府官僚	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
大江広元役・栗原英雄	北条義時・梶原景時	大江広元役・栗原英雄	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
三善康信役・小林隆	北条義時・梶原景時	三善康信役・小林隆	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
その他	北条義時・梶原景時	その他	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
八重役・新垣結衣	北条義時・梶原景時	八重役・新垣結衣	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
道役・堀内敬子	北条義時・梶原景時	道役・堀内敬子	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
比企尼役・草笛光子	北条義時・梶原景時	比企尼役・草笛光子	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
丹後局役・鈴木京香	北条義時・梶原景時	丹後局役・鈴木京香	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
藤原秀衡役・田中泯	北条義時・梶原景時	藤原秀衡役・田中泯	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
謎の僧・市川猿之助	北条義時・梶原景時	謎の僧・市川猿之助	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
山内首藤経俊・山口馬木也	北条義時・梶原景時	山内首藤経俊・山口馬木也	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之
武蔵坊弁慶・佳久創	北条義時・梶原景時	武蔵坊弁慶・佳久創	高岸宏行	島山重忠役・中川大志	上総広常役・佐藤浩市	和田義盛役・横田栄司	梶原景時役・中村獅童	伊東祐親役・浅野和之



*History of
Shrines*



本堂・観音堂 ご本尊の聖観世音菩薩を奉安していることから、観音堂とも呼ばれています。



榓觀音像
お顔立ちは慈悲にあふれている

平安末期の災禍と再建

長久二年(1041)十一月二十二日に起った大地震により、浅草寺の堂舎はあらかた倒壊し、境内が荒れ果ててしまいました。寂円上人という修行僧が、この惨状を見て再建の志を起こします。隣境の山中で材木を伐採し、野で葦葦を集めてもわった寂円上人は、永承六年(1051)ついに宿願を果たして本堂を落慶しました。

しかしこの本堂も、わずか二八年後の承暦三年(1079)十一月四日、原因不明の火災によって焼失します。この折、ご本尊が本堂の西方にあつた榓の梢に自ら避難されたとの故事が伝わっています。

その後、仁安四年(1169)、学頭(寺の学問を統轄する者)であった用舜上人が中心となり、浅草寺再建に尽力したことが記録に残っています。このとき用舜上人が修した聖観音の秘法によつて、轟然

源義朝公ゆかりの榓觀音像

源頼朝公の父である義朝公は、浅草寺に觀音像を奉納されました。その觀音像は榓(えのき)觀音(左写真)で、左手に蓮華を持ち、右手は掌をこちらに向けて差し伸ばし、衆生を救う姿勢を示しておられます。前述の承暦三年(1079)の火災で、ご本尊の觀音様は難を避けるために西方の方角にある大榓の梢に飛び移つて難を逃れたと伝えられ、その大榓でつくられた御像が榓觀音です。

(参考文献:「浅草寺」金龍山浅草寺発行)



源頼朝公が戦勝祈願のために浅草寺に参詣する場面
頼朝公は浅草寺に土地を寄進するなど、篤く庇護した。
(寛文縁起)



「柳の御影(やなぎのみえい)」
慈覚大師の御作である御影版木で刷られたご本尊の御姿

源頼朝公の浅草寺参詣

「浅草」という地名は平安後期以前の古書には出ておらず、確実な史料における初見は、鎌倉時代に編纂された歴史書『吾妻鏡』であるとされています。鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』には、建久三年(1192)に鎌倉で宮まれた後白河法皇の四十九日忌「百僧供養」に、浅草寺の僧侶三名が出仕したことが記されています。そのほか、建長三年(1251)、浅草寺の食堂に暴れ牛が現れて怪我人を出したという記事もあり、浅草寺は当時の関東における大寺の一つで、幕府とも関係を有していたことを示しています。

また、觀音さまを篤く信仰する源頼朝公は、治承四年

年(1180)、平家追討の戦陣を進めて下総(現在の千葉県北部と茨城県の南部)から武藏国へ入ったときに、浅草寺で勝利を祈願しています。また、その後の文治五年(1189)、奥州平泉(現在の岩手県平泉町)の藤原氏征討の際にも、頼朝公は戦勝を願つて浅草寺に田園三六町(約三五万七〇〇〇m²)を寄進しました。やがて源平の戦いで西上した武者たちは、西国十三觀音札所を見聞して信心を深めました。それが契機となり、鎌倉時代初期、坂東にも三十三觀音札所が整えられ、このときに第十三番靈場となつた浅草寺は、東京都内では唯一の札所で、今も多くの巡礼者を迎えています。

温座秘法陀羅尼会

榎觀音様をご本尊に法要

浅草寺一山 善龍院住職 清水谷 尚順師

温座秘法陀羅尼会（おんざひほうだらにえ）は、江戸中期より浅草寺に伝わる年間で最も重要な行事の一つで、毎年1月12日から18日まで、昼夜不断で行われます。温座秘法陀羅尼会のご本尊は、源義朝公ゆかりの榎觀音で、その修法は幔幕（まんまく）に覆われ外部からうかがうことができません。

この法会について浅草寺教化部執事の清水谷尚順師にお話を伺いました。

インタビュアー 木下直也

三百年以上伝わる秘法

温座秘法陀羅尼会は浅草寺一山（いっさん）の住職（一四人）によって勤修される年頭の法要で、江戸中期より浅草寺に伝わる、年間で最も重要な行事の一つです。昼夜途切れることなく七日間にわたって住職が約一時間ずつ交代しながら、「觀音供」という、真言を唱えたり、印を結んだりする修法を一六八座（一回の修法を一座という）行ないます。そして、一座ごとに、『千手千眼觀世音菩薩広大円満無碍大悲心大陀羅尼（せんじゅせんげんかんぜおんぱさつこう）』を唱えることから、「陀羅尼会」と呼ばれています。

私も一週間の修法中、昼に乗る座もあれば、夜中や早朝に乗る座もあります。夜中の浅草寺は、日中の喧騒とは違つて静まり返つており、厳肅な雰囲気です。

修法が一座終わると、すぐに次の僧侶が交替して修法を始めます。私も順番が来て座に乗りりますと、座の温かさを感じます。このように、座が冷える間もないた

め「温座」と呼ばれます。

温座秘法陀羅尼会の発祥は、奈良時代に遡ります。当時、報恩大師様（？～795）が孝謙天皇の病に際してこの陀羅尼を修したところ、病は平癒されました。以来、この秘法は報恩大師様がお建てになつた備前国の金山寺に脈々と传わり、江戸時代の正徳二年（1712）に金山寺から浅草寺に秘法が伝わりました。以来約三百年以上にわたり、浅草寺で勤修されています。

ご本尊は、源頼朝公のお父上にあたる源義朝公が浅草寺にご奉納された榎觀音様です。今年の大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」では、大泉洋さんが頼朝公を演じられていますが、觀音様を拝んでるシーンが何度もありました。頼朝公は觀音様を篤く信仰されていたので、ドラマでも描かれたのだと思います。由緒ある榎觀音様の前で、年頭にあたり私たち僧侶が祈りを捧げる大役を担わせていただきます。修法中の一週間は座を空けるわけにいきませんので、身が引

き締まる思いがいたします。

世界平和、除災招福を祈願

修法が行なわれる本堂内陣の一室は幔幕で覆われて結界が張られ、私たち僧侶しか入れないようになります。最終日まで外部から中の様子をうかがうことはできません。「天下泰平」「玉体安穩」「五穀豊穫」「万民豐樂」など、世界の平和や生きとし生けるものの幸福が祈願されます。

1月12日午前6時、浅草寺一山（全部で二四院）の住職が本堂内陣の一室に出仕するなか、浅草寺貫首（かんす）大僧正が第一座に登壇して修法が始められます（開白・かいびやく）。そして「八日午後五時から、一六八座目の最後の一座（結願・けちがん）にも貫首大僧正が登壇します。この日の最後の一座では、道場のまわりにめぐらされた幔幕が引き上げられ、ご信徒にも結縁の場が与えられます。

最後の修法が行なわれている壇の脇では、曠野（荒

れた土地）に住むといわれる魑魅魍魎（ちみもうりよう・さまざまな化け物）や餓鬼（亡者）に対して供物を施すための修法「曠野神供（こうやじんく）」が修され、供物（餅）は、「錫杖師（しゃくじょうし）」「神供師」という役目の二人の僧によつて、境内の外れにある錢塚地蔵堂境内に掘つた穴の中に投入されます。

また、堂内では、天皇陛下・上皇様・皇嗣様に献上する祈祷札などの加持が終わると同時に、堂内の明

かりが全て消え、壇上に積まれた仏具が大きな音を立てて崩されます（「破壇作法」）。すると、本堂裏手からは、松明を持った鬼が二人現れ、本堂正面階段を下りて、境内を駆け巡つたのち、錢塚地蔵堂へ向かいます。鬼は、供物を投入した穴に松明を投入し、全ての行事が満了します。こうして諸尊への祈願とともに悪霊も鎮められ、年頭の除災招福の祈願が達成されるのです。



1月18日夕刻に行われる結願法要



鬼は松明を持ち、境内各所をめぐる



浅草寺 教化部執事
清水谷 尚順（しみずたにしようじゅん）師

昭和48年生まれ。平成7年大正大学仏教学部天台学卒業。平成12年浅草寺一山善龍院住職。令和3年より浅草寺教化部執事。

しの塚古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員

鈴木佑太郎

平成26年「富岡製糸場と絹産業遺跡群」としてイコモスから世界遺産に登録された富岡製糸織場から約3キロほど東にしの塚古墳はあります。今から遡ること、7世紀にしの塚古墳は、造られました。

しの塚古墳は、31基の古墳が造られた塚原古墳群の1つです。塚原古墳群は、雄川、雄川右岸の低段丘状に位置しています。段丘上には谷地状の地形が存在し、谷地の地形に沿ってグループが造られており、しの塚古墳は東側のグループにあたります。古墳群は、20メートル規模の円墳が中心で、7世紀代に造られました。

7世紀代の古墳の特徴は、7世紀以前の古墳には埴輪は伴わず、外部施設は墳丘のみです。埋葬施設は、横穴式石室が一般的で、石室内には、墓の主とともに埋葬された馬具や直刀などの副葬品が

みられます。

しの塚古墳は、国道254号道路の改築工事に伴って、調査が行われました。調査時には7基の古墳が調査され、しの塚古墳は唯一墳丘が残されている状態で、高さは3.37メートル、東西長22メートル、南北長25.7メートルあり、墳丘上には葺石が散乱していました。石室は、全長約7.7メートルあり、入口通路である「羨道」、主を埋葬する「玄室」で構成され、羨道と玄室の間に袖を左右に設けた「両袖型横穴石室」と呼ばれるもので、南向きに開口していました。

天井石は盗掘によって崩落していたものの、それ以外の石組みや墳丘に据えられた葺き石は良好な状態で残されており、墳丘が4段で構築され、古墳構築の手順を復元することが可能な古墳です。葺き石と石室に使用した石の多く



しの塚古墳全景(調査当時)



参考文献・図版出典
調訪島・石坂茂・新田陽二九九八「田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡」
文化財調査事業団

は、古墳近くの段丘礫層や雄川から入手できますが、奥壁に使用した巨石は、付近で調達できない牛伏砂岩を使用していることから、遠方から運ばれてきたと考えられます。副葬品は盗掘によつて、全体像は明らかではありませんが、刀装具や耳環、土器、須恵器が出土しました。副葬品に伴つて床面からは被葬者と思われる骨が出土しました。被葬者は、分析の結果幼年から青年まで最大8体確認され、墓を造る際には「人に対して埋葬を行うのが、一般的であり、人骨数から複数回にわたつて、追葬が行われ

ていました。また骨には、犬の骨も含まれており、ペットとして飼われていたのでしょうか。

現在、しの塚古墳は、原位置から西に700メートル離れた国道254線脇に移築、公開されています。周辺には、富岡製糸織場やこんなにやくパークなどの施設もありますので、併せて足を運ばれてはいかがでしょうか。



移築されたしの塚古墳

ましもゆき

情念と欲望が絡まるモノクロームの世界

美術研究家 染谷 滋

鮮烈なデビュー

ましもゆきの作品に初めて出会ったのは二〇〇八年(平成二〇)年の年の瀬だった。それは東京オペラシティアートギャラリーが、若手作家を応援・紹介する企画として行われた個展で、インクとペンで描かれた花や鳥が、廊下のような細長い展示会場に、大作や小品など十数点並んでいた。細密な線描が画面を覆い、文様を思わせる形がびつしりと描き込まれたその世界は、モノクロームにもかかわらず独特の色香を感じさせるものだった。

実はこの展示がましもゆきの初個展で、ましもはその前年に東京造形大学を卒業したばかりだった。東京オペラシティアートギャラリーは、ギャラリーと呼ぶより美術館といったほうが正確で、実際このときもメインの展示室では写真家蜷川実花の大規模な展覧会が開催中で、極彩色の蜷川ワールドとまだ無名と言つてよいましもの白黒の作品群は、見事な対照をみせていた。

卒業制作が転機

ましもゆきは一九八四(昭和五九)年前橋市で生まれた。子供の頃から漫画が大好き。中学や高校で美術部に所属したのも漫画やイラストレーションが描きたか

た。アーティストましもゆきの誕生だった。

ましもゆきの開花

初個展は成功だった。翌年の二〇〇九年には、損保ジャパン美術財団選抜奨励展(損保ジャパン東郷青児美術館、現在のSOMPO美術館)に選ばれて出品。その翌年の一〇〇〇年には、若手アーティストの登竜門と田さ

た。

卒業制作が転機

ましもゆきは、それまでの人物中心のいわゆる漫画チックな絵とは線を画す世界になっていた。この作品がましもの転機となつた。

見出された才能

卒業制作は、東京都美術館での「東京五美術大学連合卒業・修了制作展」に展示された。その会場を訪れた東京オペラシティの学芸員が、ましもの作品に目を留めた。作品の魅力もさることながら、床に置かれていた作

れた。

卒業制作は、東京都美術館での「東京五美術大学連合卒業・修了制作展」に展示された。その会場を訪れた東京オペラシティの学芸員が、ましもの作品に目を留めた。作品の魅力もさることながら、床に置かれていた作

れる上野の森美術館のVOCA展に推薦されて出品した。

二〇一二になると地元群馬の高崎市美術館で「作家王国 ましもゆき／ゆめのおくそこ」が開催。それまでの代表作三十点余りが展示された。高崎市美術館の作家王国の企画は、通常一人の作家を組み合わせていたが、このときは県内のコレクター氏のコレクション展と併せての開催だった。一氏のコレクションの中に、既にましもの作品が含まれていたことも原因だったに違いない。

東京での個展も行われていたが、県内での活躍が顕著だった。二〇一三年にはアーツ前橋の開館記念展「カゼイロノハナ」に出品。二〇一六年にはハラミュー・ジアムアークのカフェエダールで個展。二〇一七年にはアーツ前橋の「前橋の美術2017」と群馬県立近代美術館での「群馬の美術2017」に選ばれて参加した。

闇から光へ

昨年の夏、BSフジで放送された「ブレイク前夜」という番組でましもゆきが取り上げられた。三分ほどの

短い映像で、これは今でもユーチューブで観ることができる。その中でましもは、欲望こそが人間の本質で原動力と語り、それこそが自分のテーマと明かしている。

ましも作品に特徴的な怪しさと不気味さを感じさせる黒い線描は、もともとは花の雄しへと雌しへが長く垂れ下がつたものだった。欲望の象徴として描かれるその線描は、花から切り離され、それ自体が生き物のように絡まり合う。

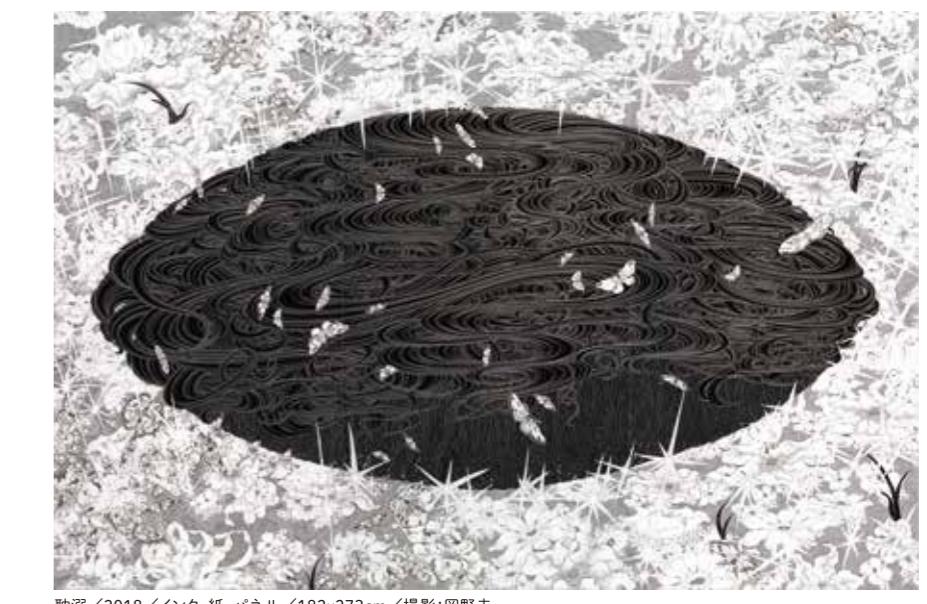


火の花 / 2021 / インク、紙、パネル / 72.8x116.5cm / 撮影:岡野圭

つたからだ。それでも高校になると本格的な油絵も描くようになり、美大進学のための美術予備校などにも通うようになった。

二〇〇三(平成一五)年、東京造形大学入学。造形学部美術学科絵画専攻領域に学んだが、その頃は将来アーティストになる事など考えてもいなかつた。実技ではなく美学を専門とする清水哲朗教授について卒業制作に挑み、当初はコマ割りの漫画を描くつもりだつたらしくが、漫画は卒業しても描けるからタブローに挑戦してみてはという第三者のアドバイスに従つて制作したのが『逢』という作品だった。

漫画を描くのに使つていた丸ペンで、インクだけを使つて繊細な花々や渦巻きをびつしりと描き込んだ作品は、それまでの人物中心のいわゆる漫画チックな絵とは線を画す世界になつた。この作品がましものは、このチャンスを逃さなかつた。おそらくましも自身、転機となつた。



耽溺 / 2018 / インク、紙、パネル / 182x273cm / 撮影:岡野圭

ましもゆき YUKI MASHIMO	略歴
1984 群馬県生まれ	
2007 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業	
主な個展	
2008 「project N35」東京オペラシティアートギャラリー、東京	
2011 「作家王国 ましもゆき／ゆめのおくそこ」 高崎市美術館、群馬	
2016 「SHOP@CAFE ましもゆき／ゆめのあと」 ハラミュー・ジアム・アーツ カフェエダール、群馬	
2018 「耽溺」六本木ヒルズA'D gallery、東京	
2022 「黒を抱く」 株式会社ヤマト本社 階ギャラリーホール個展、群馬	
主なグループ展	
2009 「第28回 損保ジャパン美術財団選抜奨励展」 損保ジャパン東郷青児美術館、東京	
2013 「アーツ前橋開館記念展 カゼイロノハナ 未来への対話」 上野の森美術館、東京	
2010 「VOCA展2010 -新しい平面の作家たち-」 アーツ前橋、群馬	
2017 「群馬の美術2017 -地域社会における現代美術の居場所-」 群馬県立近代美術館、群馬	
2020 「FLOWER展 今をいろどる花たち」高崎市美術館、群馬	

台東区立浅草公会堂 様

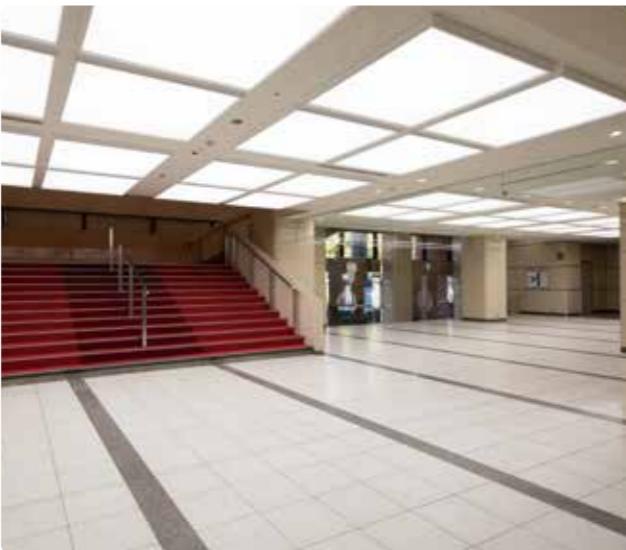
お客様
紹介



リニューアルされた客席 歌舞伎に欠かせない本格的な花道が設置できる。



2階のロビー



1階のエントランス



浅草公会堂の外観 毎年1月には新春浅草歌舞伎が開催される。

台東区立浅草公会堂は2021年(令和4年)にリニューアルオープンしました。同公会堂は一九七七年(昭和五十二年)に台東区浅草区庁舎跡地に、区立公会堂として建てられたホールです。建築から四十年以上経過したため、天井耐震補強工事やホール内の座席、内装工事、設備機器の大規模改修工事が実施されました。2022年(令和三年)二月一日より休館して工事が行われ、2023年(令和四年)一月四日にオープンしました。建設プロダクトのヤマトは、空調設備更新工事に携わらせていただきました。

- 主な改修工事
 - ホール天井の耐震補強工事
 - ホール座席更新等内装工事
 - 席数(ホール) 1,070席
(リニューアル前 1,082席)
 - ホームペーパー更新工事
 - トイレ洋式化及び増設工事
 - その他 電気設備、給排水設備、空調設備更新工事等
- *車いすスペースを増設したことによる減

URL <https://asakusa-koukaidou.net/>

私は台東区役所で約10年間にわたり電気設備を中心に建築関係等の業務に携わり、機械設備に携わるのは今回が初めてでした。この施設は台東区内ではほぼ最大規模の建物で、今まで携わった現場よりも、機器の種類が多くありました。既設と新設の取り合い(接合部分における処置)が多くあり、ヤマト様やJVRの方々に「ご配慮」いたきました。また、この規模の工事にしては工期がかなり短かったにも関わらず、様々な場面で工夫して収めていただき、ヤマト様には感謝しています。



お客様
インタビュー

台東区役所
総務部 施設課 歌代 智康 様

東京都台東区



スターの原寸手形とサインが並べられています。

スターの手形
浅草公会堂の正面入り口前には俳優、落語家、歌手、芸能人の手形が並ぶ「スターの広場」があります。大衆芸能の発展に貢献した芸能人の功績を称え、その業績を後世に伝えるために昭和54年から設置され、毎年増え続けています。